

認定こども園へ早期移行 保育・教育環境の整備に努める



認定こども園になった際に場所を
移転して新築した園舎

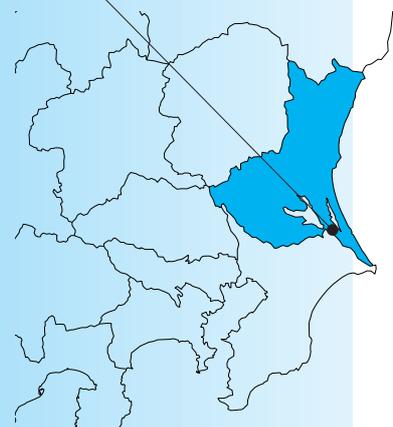
理事長 平山豊治
主任 平山和子

《社会福祉法人水郷めぐみ会》

〒311-2446
茨城県潮来市須賀南135
<http://suigom.p1.bindsite.jp/>

○認定こども園 こひつじ園

- 小羊保育園(定員80名)
- 小羊幼稚園(定員20名)



保育を必要とする人ならば誰でも入れる施設を目指し、いち早く認定こども園に移行したこひつじ園。マーチングバンドを採り入れた活動で、子どもが持つ力を引き出す教育・保育に力を注ぐ。

保育を必要とするなら 誰でも受け入れたい

2009年、いち早く幼保連携型の認定こども園となった「こひつじ園」。31年間、保育園として地域の保育を担ってきた同園が認定こども園に移行したのは、ある出来事がきっかけだったと、理事長の平山豊治氏は語る。

「保育園は保育に欠ける子どもを預かる場所という制約から、母親が仕事を辞めると、お子さんは保育園にいらなくなります。そういうケースが実際の問題として起きたのです。それまで毎日、通っていたのに、その子どもは保育園の門まで来てウロウロしている。その光景に直面したのが直接の引き金となりました。

この問題を解消する方法はないかと以前から考えていたことでしたが、ちょうどその頃、“総合施設”という話が出てきました。保育園も幼稚園も一緒になった施設ということだったので、この問題が一挙に解決できると思い、一も二もなく決断したのです」

一般に、保育園は子どもを遊ばせておくところ、教育は幼稚園という認識があるなかで、認定こども園となったことにより“保育と教育がバランスよく行われている”と、外部からの見方が変わり、保護者の方にも高評価を得ているという。

3歳前後の子どもの教育が 重要と保育園を開園

キリスト教会の牧師でもある平



写真中央が平山理事長、右が平山主任、左は監査担当の藤田諭氏(税理士法人タックス・イバラキ)

山理事長が保育園を開園したのは、日曜学校で教えるなかで、3歳前後の環境とその時点からの教育が子どもの成長に大きく影響を与えることを強く感じてきたためだ。そのため日曜学校ではできない“毎日の教育”という理由から保育園を始めたのだ。理事長夫人で同園の主任を務める平山和子さんも同じ考えだった。

「国立大学の教育学部に通っていたのですが、小学校からの教育では遅すぎると感じるようになり、大学をやめて神学校で日曜学校の勉強をするようにしたので。3歳前後の子どもへの教育ということは、保育園開園の根本に